

エイトマン

吉田浩二

登場人物

田神 正勝（28） 数学教師

黒崎 茂（40） 謎の組織のリクルー

ター

恵子（17） 女子高生

○高校の教室

田神 正勝（28）が黒板に数式を書いている。黒板の隅に2月14日と書いてある。

○道場

空手の道着を着た田神が立っている。その前で、生徒たちが練習している。

生徒1、2は座って見ている。

生徒1 「田神先生って彼女いんのかな」

生徒2 「女は苦手って噂だぜ。いない歴〓年

齢だっさ」

生徒1 「イケメンなのになあ」

田神 「やめ！俺が見本を見せる。君、そこに立ってくれ」

生徒3 「おす」

田神 「はっ！」

田神は生徒3に見事な回し蹴りを決める。

○高校・建物出口

田神が出てくる。数人の女子生徒が集まって来る。恵子（17）ほか2名。女の子たちはチョコを差し出す。

恵子「先生、チョコ受け取って」

女の子2「私も。手作りよ」

田神「あ、ああ。ありがとう。嬉しいよ」

女の子3「先生、顔真っ赤じゃん」

恵子「先生かわいい！」

笑う女の子達。田神は逃げるようにその場を去る。

○田神のアパートの部屋（夜）

スーパーの袋を抱えて田神が入ってくる。

棚の上にはトロフィーや賞状。軍服姿の田神の写真が飾ってある。

テレビをつけると、ニュースが流れている。

アナウンサー「関東で連続強盗殺人が立て続

けに起きています。実行犯は2名逮捕されました。いづれも犯人はSNSの闇バイト募集がきっかけで、犯罪に手を染めたようです」

番組ゲストが「指示役、首謀者は捕まらないんですかねえ」と尋ねている。

田神は拳をぎゅっと握りしめる。手がわなわなと震えている。

○ゲームセンター（夜）

ゲームセンターでシューティングゲームをしている田神。すごい高得点で、周りに人々が集まって見ている。

○ゲームセンター入口（夜）

田神が出てくる。

真っ黒なスーツを着た、チビで不細工な黒崎 茂（40）が暗闇の中から現れる。

黒崎「ずいぶん興奮しておられましたねえ。」

田神さん。刺激が欲しいんじゃないですか。
毎日同じことの繰り返しでうんざりしてる
んじゃないですか」

田神「なんだ、あんた。なんで私の名前を」

黒崎「私はこういう者です」

と名刺を差し出す。

「正義の味方 リクルーター 黒崎茂」

と書いてある。

田神「正義の味方？ふざけてんの？」

黒崎「いえいえ、本気です。私は正義の味方
をリクルートしてます。よかったら話を
聞きませんか」

田神「急いでるんで」

と、田神は行ってしまふ。

○道（夜）

田神が歩いている。

椅子に座った占い師が目につく。

○道の端の一角（夜）

田神が占い師と向き合っている。

占い師「あなたは8がラッキーナンバーだ。

運命が開けます。まさに末広がりの展開です。8に注意してください」

田神は、先ほど黒崎から貰った名刺を

見る。電話番号が031008188

88。

田神「8：：：」

○田神の部屋（夜）

田神が寝ている。うなされている。

× × ×

（フラッシュ）

戦場の街。女や子供の死体がいくつも転がっている。田神達、兵士がその中を突っ切って行く。

○高校正門

田神が出てくる。恵子が立っている。

恵子「先生！」

田神「なんだ。どうした？」

恵子「数学教えてもらいたくて」

田神「ふーん。じゃあ教室で教えよう」

恵子「ファミレス行きませんか？」

田神「ファミレスか。しかし2人で行くと：

：：「

恵子「別々に行けばいいでしょ。駅前のファミレスで待ってます」

○ファミレス内

田神と恵子が向き合って座っている。

恵子「そっか。やっとわかった。先生、頭良いね」

田神「俺が理解しているのはごくごく狭い範囲だけだよ」

恵子「よかった。先生と食事できて」

田神「：：：」

恵子「どうしたの？」

田神「やっぱ、平和が一番だなあ」

恵子「なーに。しみじみと」

○道（夜）

田神が歩いている。

女の声「助けて！誰か―」

道の横の駐車場で若い女性が浅黒い外国人の男3人に取り囲まれている。3人は女の口を押えて車の中に引きずり込もうとしている。

田神が走って来る。

田神「何やってんだ！」

男1「なんだ、日本人」

と、ナイフを取り出す。

男2「やっちまうぞ」

もう一人の男もナイフを取り出す。

田神は空手の蹴りでナイフをはたき落とし、男2人を一瞬で倒す。

が、女を乗せて車は行ってしまふ。

田神はスマホを取り出し警察に電話する。

どこからともなく黒崎が現れる。

黒崎「お見事。さすがは元精鋭」

田神「なんなんすか、あんた」

黒崎「満ち足りた表情だ。やはりあなたの使命は悪を倒すことだ」

田神「：：：」

黒崎「私はリクルーターです。よかったら話を聞いてみませんか」

○バー外観（夜）

○同・店内

田神と黒崎が向き合って座っている。

黒崎「あなたの両親は強盗に殺されたんですよ。あなたが中学生の時だ」

田神「なぜそれを？」

黒崎「私たちは、あなたのことは何でも知っている。今、連続して起こっている強盗殺人について、どう思いますか」

田神「：：：」

黒崎「首謀者は、多くの人間の人生を破壊し

て、自分だけ大金を稼ぎゆうゆうと暮らしている。法の網をかいくぐる彼らは法では裁けない。そこで我々の出番だ」

田神「裁く？」

黒崎「首謀者を抹殺するという事です」

田神「首謀者が誰なのか掴んでるんですか」

黒崎「ええ。我々は独自の情報網を持っています」

田神「：：：」

黒崎「あなたは平和ではあるが退屈な今の生活に物足りなさを感じている。悪人を倒す、それがあなたの天職だ。執行者になるかね」

田神「：：：考えさせてください」

黒崎「よし。君は8人目の執行者だ。これから君のことはエイトマンと呼ぶ」

田神「いえ、俺は考えさせてと」

黒崎「そう言った人間で、断ったのは一人もいない」

黒崎はバッグから「8」という黄色い

マークがついた黒いボディースーツ

(サーファ―のような)を出す。

黒崎「仕事中はこれを着たまえ」

田神「いやいやいやいや。コスプレじゃないんだから」

黒崎「我々は様式美にもこだわっている。謎の組織と世間に印象付けるんだ」

田神「これで？」

黒崎「正義を実行する黒い集団だ。いけてると思わんかね」

○街中(深夜)

胸と背中に8と書かれた、ボディースーツを着た田神が走っている。街灯に照らされて8が光って見える。

2人組が目撃する。

男1「今なんか変なのが横切った？」

男2「ああ。なんだあれ。変質者？」

男1「最近、ああいうの増えてるよなあ」

田神M「俺のラッキ―ナンバーは8。8は無
限を表す。俺の華麗なる人生が始まろうと

「している」